

(様式2)

平成 29 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1570600369		
法人名	社会福祉法人いじみの福祉会		
事業所名	グループホーム陽だまり苑(米倉ユニット)		
所在地	新潟県新発田市岡田1746番地1		
自己評価作成日	平成 30年 1月 9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成30年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・木造平屋造りで広く、自由に動ける空間を有している。また、当敷地内には特養が併設されており、支援体制も整っているため、心身状態が低下しても可能な限りグループホームで生活が送れるなど、利用者や家族の安心に繋がっています。

・利用者や家族、そして職員の絆を大切にしており、定期的に自宅に帰れる支援や、家族と共に過ごす時間を大切に支援しています。夏には七夕会、冬にはクリスマス会を開催して家族と一緒に楽しんでいただいています。

・苑の中庭の一面に畑を作り、利用者と職員と一緒に収穫して、採れた野菜を食卓にのせて楽しんでいただいています。

・利用者が快適にかつ安全に日常生活が送れるよう、日々環境整備に取り組んでいます。

・感染症の時期には、勉強会を開いて、シミュレーションを行い対応を学んだり、日常業務の中でも利用者が触る手摺、椅子の肘掛、トイレの便座など、毎日次亜塩素酸ナトリウムで拭き、また、利用者や家族、来苑者には、外出時や来苑時にマスクの着用や手洗いうがいを行っています。

・毎年、地域の川東文化交流展に利用者の作品を出展したり、盆踊りや火渡り見物、菊水酒造様主催の植花夢コンテストに花を育て、参加させて頂き、地域の方との交流を深めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同敷地内に法人が運営する特別養護老人ホームと通所介護サービス事業所が開設されていることから、日常的に協力体制が整っており、安定した運営行われている。グループホーム内は全体に広く、ユニットごとにベランダや中庭が造られており、利用者は季節を感じながら過ごすことが出来る。室内の観葉植物や玄関の植栽等の緑も多く、季節ごとのガーデニングや畑での野菜作りが行われており、毎年花作りはコンテストに応募するなど、利用者・職員の大きなイベントになっている。

職員は利用者の喜びや意欲のある暮らしを実際化するために常に利用者に向き合い声を聴いて、できる事の引き出しを増やしたり、やりたい事の継続ができるようにアイデアを出し合いながら取り組んでいる。事業所内に飾られている利用者や職員とが作り上げた作品はとても素晴らしく、和気あいあいと一緒に取り組んでいる様子が伝わるものであった。

運営推進会議を活用した地域との交流も少しずつ拡大しており、災害時の協力体制も築かれ地域行事への参加も増えている。地域行事への参加を通じて事業所の取り組みや、利用者が地域で暮らし続けることの地域密着型サービスとしての位置づけも広がってきており、今後は認知症介護の相談窓口や拠点として活躍が期待できる事業所である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、利用者が住み慣れた地域で、その方らしく暮らせるよう理念を掲げ、その人らしく毎日を送る事が出来る様、方向性を統一しながら実践に繋げている。	開設時に職員で作上げた理念を毎年振り返る機会を持ち、その結果、「利用者が喜びと意欲を持ち続けられる暮らし」を支援することが事業所の目指す方向であるとの共通認識で、継続した理念を掲げている。日々の中でも話し合いながら実践に繋げており、利用者が毛筆で書いた「理念」を食堂やホールに掲示し、来訪者や家族等にも公表している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市内行事への参加や、地域の方より支援して頂き、地元行事の川東文化交流展に作品を出展させて頂いたり、火渡り修行や盆踊りに参加するなど地域との交流を大切に支援している。	集落から離れた場所にあるため、日常的な付き合いができるまでには至っていないが、事業所の広報誌を集落ごとに回覧してもらったり、近所の方から野菜を届けてもらうなどの付き合いができています。年々地域行事に参加する機会やボランティアに来る方が増えており、参加を通じて地域の人との交流が拡大して行くように努めている。	利用者が意欲を持って生活する暮らしの場を事業所内で完結するのではなく、地域の中での暮らし続けることを支援するために、より一層職員間でアイデアを出し合いながら実践して行くことを期待したい。また、事業所自体が地域の一員として暮らす基盤づくりに向けて、まずは職員から地域活動に参加して行くことを望みたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月発行するホーム便りを地域の回覧板に回していただき、利用者の生活ぶりや活動を紹介するとともに、地域の人々にも役立てていただけるような情報発信を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の活動やサービスの評価、取り組み状況を報告し話し合っており、地域の情報や頂いた意見を反映させ、サービスの向上に生かしている。	運営推進会議は、利用者、家族、自治会の会長と副会長、地域包括支援センター職員族の参加を得て実施している。場所を両ユニット間のダイニングで行うことで日常の利用者の様子を感じてもらい、また、2回の内1回は利用者と一緒に食事を摂って感想や気づきを共有できる機会にもなっている。会議では運営状況や利用者の状況、外部評価の結果報告等の他、地域行事の案内や地域情報の交換、災害に関する取り組み等を議題に検討している。	運営推進会議は、地域の人が事業所に来て外部の目を通して事業所の取り組み状況や改善点を話し合う貴重な機会である。この会議をさらに活用して、今後はより地域住民や子どもたちが来るきっかけ作りとなることを期待したい。また、会議内容は参加家族以外の家族にも、報告することを望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者の参加を働きかけ、協力関係が築けるよう取り組んでいる。	市の担当者からはメール等を通じて情報を得ているほか、制度等の問い合わせは気軽に行うことが出来ている。地域包括支援センター主催の研修会等に参加することで、担当者との顔の見える関係が築かれており、より相談しやすい状況になっている。また、市の介護相談員は利用者顔なじみの関係ができており、率直な意見等も相談員を通じて市の担当者と事業所で共有することができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者および全ての職員は、身体拘束しないケアの実践に向け、職員会議にて勉強会を設け、日頃のケアを見直す良い機会となっており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	利用者の自由な暮らしを、安全性を確保しながら実践しており、職員は身体拘束の弊害を理解して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。年に1回は事業所内研修を実施し、どのような行為が身体拘束にあたるのかを改めて振り返り、全職員が統一した意識のもとでケアを実践するように努めている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、職員会議で高齢者虐待防止関連法について勉強会を開催し、利用者に対する言葉の虐待などについて意見を上げ、対応を考え、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	年1回の事業所内会議の中で、虐待防止関連法について確認する機会を確保している。また、ニュース等で介護施設における虐待が報じられた時には職員で話題に上げて話し合っている。管理者は職員の状態を常に把握しており、いつもと違う様子がかがえた時には声をかけて話を聞くなど、職員がストレスを抱え込まないように努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、権利擁護に関する制度を学ぶ機会として、成年後見制度について職員会議で勉強会を開催し、個々の必要性に応じ活用できるように備えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時には、利用者や家族等の不安や疑問点に対し十分な説明を行い、ホームの運営方針や支援のあり方について理解、納得を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者や家族等が意見、要望を話しやすいように居室入口に担当職員の名前と写真を掲示し、家族来苑時には、ご利用者の様子を伝えながら日頃から話しやすい環境作りに努めている。ミニ家族会を開催し、意見を頂き、反映させている。	家族には面会時に要望や意見を申し出て欲しいことを丁寧に説明して、話し易い雰囲気づくりに努めている。面会が遠くの家族については随時電話等で確認している。また、面会に来た家族はホールで利用者と一緒に過ごすことが多く、普段の様子を見てもらいながら気軽に職員と話せる関係が築かれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りや昼礼の時間を活用したり、また、毎月職員会議の場で意見交換を行い、提案を聞く機会を設け意見を反映させている。	毎月開催する事業所会議では、利用者に関する検討事項が多いが、普段から職員間では話し易い職場環境づくりが実践されており、活発に意見交換ができています。苑長の下に位置する相談役は半年ごとに職員の目標管理の自己評価を通じて個々の意見を聞く機会を持っており、たまに事業所を訪問して日常の中で職員から話を聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の働きぶりを把握するとともに、半年に一度の自己評価を通し、各自仕事への見直しや新たな目標により、向上心を持って働ける職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、新人研修を始めとし、法人内外の研修を受ける機会を確保している。また、個人の力量の把握、職員間での介護に対する基準を統一するための教育を行い、良い習慣作りを活用し、人としても成長出来る様に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所とは必要時連絡を取り合い、情報交換を行ったり、研修や市の集団指導などでお互いの取り組みや問題点、課題など話し合う機会となっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問時には本人と面談し、困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人に安心していただける関係作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問や見学時など、家族等と面談し、困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネージャーや相談員からの情報を元に、事前訪問で情報収集等を行い、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人と一緒に外出したり、外食行事等に参加し、共に楽しんだり、日常生活に於いても、コミュニケーションを多く持ち、学び合う関係を築いている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、本人と家族の絆を継続するため、苑内行事と一緒に参加していただいたり、遠方の家族には本人の様子を電話や写真、広報の陽だまりの詩でお伝えし、支援のあり方などについて相談しながら共に支えていく関係を築いている。	家族と利用者の絆を大事にしなが、家族でなければ分からない利用者の思いを代弁してもらったり、職員が対応できない個別の外出や外食など、利用者の思いを実現するために多くの協力を得て利用者の暮らしと一緒に支援している。家族が参加する七夕会やクリスマス会等では、利用者が見せる笑顔や普段よりさらに意欲的になる状況などから、家族と事業所の協働の必要性を実感して大事に関係を築いている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の友人、知人が来苑されたときは、気遣いなく過ごせる場所を提供し、再度来苑していただけるよう環境に配慮している。又、昔勤めていた食堂へ食事に行くなど、家族の協力を得ながら馴染みの人や場所の関係が継続出来る様支援している。	これまで利用していたデイサービスへの訪問や施設に入所している友人への面会を支援している。また、家族の協力も得ながら、通い慣れた美容室や食堂も利用できている。さらにこれまで取り組んできた囲碁やピアノ、裁縫、図書館通いなど、利用者が入居後も引き続きやりたいことが実現できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、気の合う者同士が会話できるテーブル座席の配置とし、また作業など一緒に行うことにより、良い関係を築けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、併設特養へ移られた方への面会や、家族からの相談を受けたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全職員が利用者の環境や状態の変化に気を配り、気付いた事について報告し、話し合っている。又、日々のケアの中で本人の希望や意見を聞き、意志を把握するよう努め、検討している。	職員は、サービス担当者会議や会議の事前に利用者の思いを聞く機会を確保しているが、日常の暮らしの中でも利用者一人ひとりに向き合っており、行動や会話の中から意向や思いを汲み取ることを積み重ねている。また、利用者が常に思いを職員に申し出られるような雰囲気づくりと言葉かけに努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からの情報収集により、一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過を担当していた職員に伺うなど、把握に努めている。	入居申し込みを受けた際に、利用者・家族から生活歴や医療情報、生活環境、生活習慣等について聞き取りを行っている。在宅サービスを利用していた場合には、居宅のケアマネージャーやサービス事業所から情報を得ている。また、入居後に確認できた情報等は記録に追記して、全職員で共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の過ごし方や状態を毎日支援経過、健康チェック表に記入し、職員間で情報を共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を取り入れたり、新しく知り得た事柄を常に記入し、利用者の変化に対しカンファレンスを行い、状態変化があった時は、その都度見直す他、必要に応じて主治医の意見を伺ったり、本人にも参加していただき、それぞれの意見が反映されるよう、現状に即した介護計画を作成している。	職員の気づきを常に利用者のより良い暮らし方に反映出来るように全職員で共有を図り、検討するように取り組んでいる。3ヶ月毎のモニタリングや半年毎の計画の見直しは、職員の意見を聞きながら計画作成担当者と管理者が主になって行い、介護計画の作成に取り組んでいる。	利用者の暮らしが事業所内で完結するのではなく、地域の中でその人らしいより豊かな暮らしが送れるように、利用者をよく知る人の意見や気づきも反映しながら、多くの関係者が参画しての介護計画の作成により一層取り組んで行くことを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個々に支援経過を記入し、重要な事柄はフロア日誌の記入と申し送りにて全職員が情報を共有し、実践や介護計画に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応し、可能な限り本人や家族にとって一番良い状態であるような柔軟な支援ができる体制である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域文化交流展、盆踊り、火渡り修行への参加。外出行事ではぶどう園やレストランの方々の協力の元、車椅子の方でも楽しめるよう工夫していただいている。また、消防署、地域消防団立会いの避難訓練を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望により主治医を定め、日頃より家族へ状態報告を行い、必要に応じて主治医へ文章を作成する等、一人一人に合った適切な医療が受けられる様関係を築き、支援している。	法人が同敷地内で運営する特別養護老人ホームへの往診医が事業所利用者への往診にも対応してくれる体制にあり、利用者は入居時に医療状況や希望により、これまでのかかりつけ医の継続とを自由に選択することが出来ている。受診は基本的に家族対応であるが、必要な情報は医師・事業所・家族とで常に共有が図られるように取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、日々の関わりで捉えた情報や気づきを、併設特養の看護職、または掛かり付け医の看護師と連携を図り、一人ひとりに適した処置や看護が受けられるよう情報を共有し、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、家族と相談した上で、ホームでの支援が可能な状態であれば早期退院もできるため、病院関係者との情報交換、相談に努め関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、終末期のあり方について、初期の段階から本人、家族に説明し、都度意向を確認している。また、状態により主治医の意見を伺うなど、利用者にとって良い方向性を考え、重度化した場合の指針を元に、事業所ができることを十分に説明しながら方針を共有し支援に取り組んでいる。	利用者に医療処置が必要になった場合や重度化した際には、早い段階から利用者・家族の意向を確認し、話し合いを重ねて、併設の特別養護老人ホーム等への住み替えを支援している。利用者にとっては法人内での移動であり、不安が少ない。また、前回の外部評価の結果を踏まえて、重度化した際の事業所の指針を文章化して利用者・家族に示すようにしてより理解が得られるように改善が図られている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については、特養看護師の支援を得たり、グループホーム独自の緊急時の対応について研修を行い、急変時に備え、実践力を身に付けている。	全職員が毎日の申し送りや業務日誌の確認により両ユニット18名の利用者の普段の状態を把握しており、異変等に早く気付けるよう取り組んでいる。また、特別養護老人ホームの看護師にいつでも相談・対応してもらえる協力体制が作られている。急変時については、施設内実践研修に参加し、確実かつ適切な対応が行えるように技術を身に付けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制を築いている	全職員は、消防署、地域消防団の参加のもと、水害や昼夜を想定した避難訓練を実施し、避難方法を身につけている。また、緊急連絡網に地域の防災委員の連絡先を記載させて頂き、運営推進会議にて地元地域からの食料支援が受けられる協体制を築いている。又、施設内には1日分の備蓄を備えている。	年2回の避難訓練の実施の他、災害別に避難場所や避難方法の確認を行い有事に備えている。敷地内の特別養護老人ホームの協力や自治会を通じた地域住民からの協力が得られるように体制が整備されている。また、職員は通報訓練の実施等を通じて対応力を身に付けている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、利用者が過ごしてきた背景や人格を把握、尊重し、一人ひとりに合わせた誇りやプライバシーを損ねない言葉掛け、時には方言や分かり易い言葉を取り入れ、その人に合った対応をしている。	全職員が利用者の誇りやプライバシーについて常に意識しており、具体的に確認し合っている。利用者の呼び名は利用者一人ひとりの希望に応じて対応し、利用者を理解することで適切な関わりができるように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望を表しやすいよう、言葉掛けや環境作りを行うことで、本人自らが自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、一人ひとりのペースに合わせた対応を心がけ、事前に行事等の参加の有無、外出希望など、その日1日の過ごし方を本人の希望に添うよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容室がある利用者には、本人の希望に添い支援している。起床時一人ひとり好みに合わせた洋服選び、又、外出の際家族が用意して下さった服を着て頂いたり、その人らしいお洒落ができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外食行事では事前にメニューを取り寄せ、好きな物を注文し、職員と外食を楽しんでいただいている。また、利用者の希望に応じたメニューを取り入れ、一人ひとりの能力を活かしながら、作り方を聞いたり、味付けをして頂くなど、一緒に食事の準備や後片付けを行っている。	献立は担当者が法人管理栄養士のアドバイスを得ながら、利用者の希望も反映させて作成している。旬の食材や利用者が畑で育てた野菜も献立に活かして、季節を感じながら食事が出来るように工夫している。利用者は普段から配膳、盛り付け、片付け等に積極的に参加し、その役割も日々の楽しみにつながっている。また、外食やお弁当を持って出かける楽しみや、焼きそば、おはぎ、ちまき、稲荷ずし作り等は職員が利用者と一緒に教わりながら一緒に作ることで利用者の充実感、生きがいがいいになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時のカロリー計算や、栄養バランスを考えたメニュー作りを行い、管理栄養士のアドバイスも受けている。また、一人ひとりの食事形態、水分量、体重増減を考慮し、食事チェックシートを活用し健康管理に役立てている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者一人ひとりの能力に応じた介助や声掛けを行い、口腔内の清潔保持に努めている。また、就寝時には義歯をケースに保管し、安全にも配慮している。希望によっては、定期的に歯科検診も受けられるよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムをチェック表にて把握し、誘導の声掛けに拒否が見られる利用者には声掛け方法を工夫したり、分かり易くトイレの場所を表示し、自立に向けた支援を行っている。また、尿取りパットを自分で交換できる様、トイレに設置させて頂いている。	利用者一人ひとりの排泄状況やその日の体調等を細やかに把握し、適した排泄用品を使用しながらトイレで排泄できるように支援している。また、時間誘導や排泄パターンを把握しながら支援することで、入居時より改善した利用者もあり、排泄について自立している利用者が多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の確保や食物繊維を多く取り入れた食事となるように配慮し、毎日牛乳とオリゴ糖入りのヨーグルトを提供したり、日常的に支援している適度な運動や、入浴後の水分補給を行うなど、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の好みに合わせたお湯の温度調節、時には気の合う同志での入浴や本人の好むメーカーの物品を使用していただいたり、入浴剤やゆず湯、菖蒲湯等の季節行事を取り入れる等、楽しんで入浴できるよう支援している。	入浴日は定めているが、利用者の希望や状況に応じて臨機応変に対応している。浴室内は適所に手すりを設置するなどの安全性も確保しながら、家庭的な造りであり、気の合う利用者同士で入浴することもある。ゆず湯などで季節を感じたり、入浴剤の使用で温泉気分も楽しめるように工夫している。また、利用者にとっては職員とゆっくり話せる時間帯でもあり、楽しみになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり、本人のペースで居室やデイルーム、リビングで休める環境を整えている。就寝時間も個々の生活習慣や状況に応じて支援している。夜には不安を感じる方には、内鍵をかけていただき安心して休んでいただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの病気や服用している薬の効能や副作用を理解し、医師の指示通り服薬できるよう支援し、また、便秘日数を把握し下剤の調整や服用後の様子観察に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や得意な事を把握し、家事作業や軽作業を通して自分で出来る事を行う事で張り合いのある生活を送って頂く。また、コーヒータイムや午後のレクリエーション、苑内外の行事等、楽しみ事への支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に添ってホーム周りの散歩、地域の催し物の参加、ホーム外での食事やドライブ等、家族の協力も得ながら普段行けない所へ出かけられるよう支援している。	天気の良い日には事業所周辺の散歩に出かけている。外出行事としては、季節ごとに桜や菖蒲の花見、足湯、弁当持参で行くブドウ狩りなどが定例となっており、利用者の大きな楽しみになっている。全員で外食に出かけることもあるが、家族の協力を得て個別に外出することも多く、また現在、職員と利用者が個別に利用者が希望する場所へゆっくりと出かけることを企画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金を持つことで安心感を得られることを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて家族了解のもとお金を所持したり、ぶどう狩り等外出行事の際、家族へのお土産を買うなど、希望の品を購入できるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方が好きな時に使用出来る様充電や掛け方の支援を行い、また、本人の希望により苑の電話を利用して、電話を掛けられるように支援している。また、本人の言葉を代筆し手紙のやり取りができる支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓からは心地よい光が差し込み、明るく開放的な造りとなっており、快適な温度や湿度、臭気に配慮している。また、ダイニングには2ヶ月に一度、季節に合った飾り付けを利用者と職員で行い、季節感を感じて頂けるようにしている。	共用空間は天井も高く明るく木の温もりが感じられる造りである。干支の作品を初め季節を感じる装飾品やアレンジフラワー、多くの観葉植物により心が和む空間がつくられている。また、量のスペースは自宅の和室のような造りで、利用者にとっても座って作業をしたり落ち着く場所になっている。トイレの表示や浴室の暖簾、居室入口の飾りなども利用者が混乱なく過ごせるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングでは状況に合わせ、気の合った利用者同士で会話ができるよう席の配置に配慮したり、少し離れたデイルームにはテーブルとイスを設置して、自由に過ごして頂けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、入居時に自宅で使用していた馴染みの物品をそのまま使用して頂き、自宅で過ごしていた頃の生活感を継続し、居心地良く過ごせる工夫をしている。	居室には洗面台と収納スペースの他は使い慣れた家具等を持ち込んで、これまでの暮らしと混乱がないように設えている。防災カーテンも持ち込みであり、一人ひとりの好みや個性が活かされている。本を読んだり、趣味の手作業や書き物に取り組んだり、写真を眺めたり、自由に居心地良く過ごせる居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで車椅子でも可能な広いスペースの廊下やトイレ、浴室には手すりが設置され、場所の理解ができない利用者にもわかりやすいトイレ表示。又、出来る事を継続して頂ける様見守りと声掛けを行い、安全かつできるだけ自立した生活が送られるよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				